

「語義ツリー」を授業で活用する

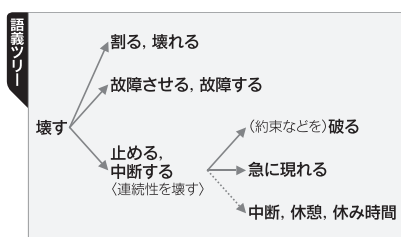
四方雅之



◆多義語の理解を助ける「語義ツリー」

何でも書いてある。英語のプロフェッショナルの要求にも応える。これが兄貴分の『ジーニアス英和辞典』の魅力です。その反面、中学生・高校生には圧迫感があることも事実。『アクシスジーニアス英和辞典』には、学習者に対する「優しさ」が込められています。

優しさの代表が「語義ツリー」です。特に基本語に対して、あれもこれもと訳語を学習者に押しつけることはありません。「中心の意味」、つまりコア・ミーニングに目が向くように仕向けられています。break を例にとってみましょう。



break の「中心の意味」を「壊す」と定めた上で、枝分かれ式になっています。特に、「壊す」から「中断する」の意味が生まれ、点線で「休み時間」の名詞の意味が生まれたことがわかります。実にわかりやすい概念図です。

「多義性」を持つと学習者は悩みます。She broke the window. と She broke the promise. を比べてみましょう。「窓を割った」と「約束を破った」の訳を別々に覚えようとする学習者は悩み、苦しみます。一方、目に見えるもの（窓）を「壊す」という行為と、目に見えないもの（約束）を「壊す」という行為は、ともに break で表す、

と理解する学習者は学ぶことを楽しめます。共通点が見えるからです。

break のような「基本語」の「多義性」は学習者を悩ませます。たとえば、同じ「壊す」の意味を持つ他の関連語を田中（1993）から引用してみます。[破損する] crack, crumble, crumple, crush, destroy, disintegrate, fracture, lacerate, rip, shatter, smash, snap, split, tear；[違反する] encroach, infringe transgress, trespass, violate；[断つ] disconnect, disrupt, interpose, interrupt, intervene などです。これらは break と比べると「多義性」が薄くなります。それぞれの語が、それぞれの「壊し方」を表しており、break と比べるとその語の持つ意味が狭くなります。

ところが break は使われる場面、つまり「文脈」によって意味が変わるのです。これが「多義性」の理由です。そうなると、授業では基本語ほど文脈をきちんと提示して指導する必要があるといえます。つまり、基本語ほど教師の腕前が試される、と心得るべきでしょう。

◆「語義ツリー」を活用した語彙指導計画

『アクシスジーニアス英和辞典』の「語義ツリー」と例文を眺めてみましょう。中学高校で指導すべき例文が浮かび上がってきます。そのいくつかの例を対象学年とともに掲げることになります。学年は私の指導経験に基づいて割り振りました。学年が上がるにつれて抽象度も上がります。[壊す, 割る]

She broke the window. (中1)

She broke her leg. (中2)

She broke my dish into pieces. (中3)

[故障させる, 故障する]

She's broken her smartphone three times. (中3)

Her watch has broken. (中3)

[止める, 中断する]

She broke her habit of eating between meals. (高1)

A knock on the door broke my thoughts. (高2)

[破る]

She broke the promise. (中3)

[急に現れる]

The sun broke through the clouds. (高2)

[中断, 休憩, 休み時間]

We have a ten-minute break between classes. (高1)

She took a career break. (高2)

break のような基本語は、複数の学年をまたぎ、何度も繰り返し学習者と出会わせるのが理想です。そして、その過程で徐々に抽象度を上げていくのがよいでしょう。「語義ツリー」は、その指導計画のヒントを与えてくれます。

◆授業内での「やり取り」の例

「学習指導要領」に指示されるまでもなく、英語の授業は英語で、学習者との言葉の「やり取り (interaction)」で指導することは常識と考えましょう。ここでは『アクシスジーニアス英和辞典』の「語義ツリー」と例文をもとに考えた授業での「やり取り」を学年別にお示しします。[] 内は教室の状況, () 内は生徒の発話です。

a. 中学1年

[女子が窓を壊している絵を見せて] Look at this window. Did Bob break it? (No.) Did Jeff break it? (No.) Who broke it? (Mary did.) Right! Mary broke the window. Class! (Mary broke the window.) Good!

b. 中学3年

[女子二人が口論をしている絵を見せて] Look at this picture. Who are they? (Mary and Lucy.) Right! What are they doing? (They are talking.) Right. Do they look happy? (No. They look angry.) Right! They are arguing. What are they arguing about? They promised to eat out last night, but Mary did not come, so Lucy became angry. In this case, Mary broke something. What did she break? (Mary broke the promise.) That's right! Mary broke the promise to eat out with Lucy. Class! (Mary broke the promise to eat out with Lucy.)

c. 高校2年

Do you have some bad habits? I have some bad habits. I cannot stop eating between meals. How about you? (I often eat sweets.) Oh, I do too! Do you want to break your habit? (Yes. I want to break my habit.) Me too! I feel like eating sweets while I am studying. What can we do to break our bad habit? (We should concentrate on studying.) Right. But a slight smell of sweets breaks my thoughts. I feel like stopping studying. (Oh, it's very difficult for you to break your bad habit.) I think so too.

上記の中学の事例は、典型的な口頭導入例といえます。しかし、高校段階になると、教師と生徒の「やり取り」はもっと自然なものになるはずで、教師は意識して、break という語を使い、生徒にもその用例が伝染するように努めます。教室は楽しい雰囲気になるはずです。

『アクシスジーニアス英和辞典』の「語義ツリー」を授業で楽しく扱うヒントとなれば幸いです。

[参考文献]

田中茂範 (1993) 『英単語ネットワーク・基本動詞編』 アルク

(しかた まさゆき・成蹊中学・高等学校教諭)